

サンデンフォレストが 環境省「自然共生サイト」の認定を取得

サンデン株式会社（本社：群馬県伊勢崎市、代表取締役 社長執行役員：ジュー ダン 以下、当社）が群馬県で運営するサンデンフォレストが、このたび環境省の2023年度自然共生サイト認定事業（前期）において、自然共生サイトとして正式に認定されました。

「自然共生サイト」とは、国が認定する「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」のことで、認定区域は「OECM（Other effective area-based conservation measures）」として、併せて国際データベースにも登録されます。なお、このたびの「自然共生サイト」に認定された登録箇所は122か所となり、認定登録は日本で初めての認定となります。

サンデンフォレストは、環境共存型の工場を目指し、2002年に開設した赤城山の南麓にある事業所です。「環境と産業の矛盾なき共存」をコンセプトとした『森の中の工場』です。当時、民間で初となる、自然生態系が復元するよう整備する「近自然工法」を用いて大規模造成し、荒廃した森林や農地だった土地の半分を森林・緑地に、半分を工場としました。

工場用地は傾斜地に対し階段状に4つの宅盤に分け、生物の移動の妨げにならないよう、用地間が緑でつながるように設計しました。また、造成に先駆け、当時はまだ義務化されていなかった環境アセスメントを自主的に実施し、造成後は3年毎に定期的なモニタリングを続けています。



サンデンフォレスト



キンランの森

2002年当初より、環境教育の場として校外学習の受入を開始し、現在では、年間9,000名近くの方に利用されています。また、群馬県教育委員会から長期社会体験研修生の受入れを継続的に行い、教育現場の先生の声を反映しながら、プログラムづくりを行ってきました。

2014年には、環境教育推進法に基づく、環境省「体験の機会の場」の認定を受け、広く外部の方が利用できるフィールドづくりを続けています。

当社は、2014年4月に、生物多様性に対する活動をより一層推進していくため、「生物多様性方針」を制定しました。またサンデンは2021年6月のG7サミットで合意された「G7 2030年自然協約（G7 2030 Nature Compact）」に基づき、2030年までに日本の陸域/海域の少なくとも30%を保全・保護する目標（30by30）を達成するべく環境省を始めとした複数の団体が設立した「生物多様性のための30by30アライアンス」に、2022年4月より参加しています。



今後も、事業所及び周辺地域での在来種や希少植物の保護の推進、生物が多く住める緑地の保全に取り組むとともに、様々な環境活動を通じ生物多様性の保全に取り組むとともに、事業活動が及ぼす生態系への影響を認識し、「環境と産業の矛盾なき共存」を目指した活動を展開し、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

以上

本件に対するお問い合わせ
サンデン株式会社
総務本部 グローバル総務セクション（広報）
sdhd.prcsr.jp@g-sanden.com
